

国語 第2学年 自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う相手です。この後に続く、第2学年の物語「お手紙」（アーノルド・ローベル作）の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

直す前に、次のことを1つずつ質問して私の答えを待ち、全部そろうまで直し始めないでください。

- 1 学級の人数と、読むのに時間がかかる子・人前で声を出すのが苦手な子がどれくらいいるか。
- 2 使う教科書と場面の分け方、本時で使いたい台詞や叙述。
- 3 これまでに学習したこと（物語の読み方、場面の表、役割を決めた音読の経験）。
- 4 子どものつまずきで気になっていること。
- 5 この単元に使える時間数と、本時を何時間目にするか。
- 6 教室で使えるICT（大型テレビ、書画カメラ、一人一台端末、録音できる機器など）があるか。

答えがそろったら、次の決まりで直してください。

- ・学習指導要領（平成29年告示）の指導事項、評価規準の文末の形は変えない。
- ・教科書の本文や台詞を自分で書き足さない。私が答えた台詞と叙述だけを、指定の欄に入れる。
- ・時間数は私が答えた数にし、根拠のない数字を足さない。
- ・直した所を最後に一覧にして、どの答えを受けて直したかを書く。
- ・先生がそのまま使える具体さで書き、飾った言い回しをしない。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 「自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう」 教材名「お手紙（アーノルド・ローベル）」

2 単元の目標

- (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読し、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)ク・(1)ア)
- (2) 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。〔C(1)イ・エ〕
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔第1学年及び第2学年の目標(3)〕

物語の行動と自分の体験を結び付けて感想をもち、人物への手紙に表す〔C(1)オ〕。身近なことを表す語句を増やし、手紙の中で使う〔知識及び技能〕(1)オ)。

3 単元の評価規準

- 〔知識・技能〕①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。〔(1)ク〕
- 〔知識・技能〕②言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。〔(1)ア〕
- 〔知識・技能〕③人物への思いを伝える身近な語句を増やし、手紙の中で使っている。〔(1)オ〕
- 〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。〔C(1)イ〕
- 〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。〔C(1)エ〕
- 〔思考・判断・表現〕③「読むこと」において、人物の行動と自分の体験を結び付けて感想をもっている。

(C(1)オ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして、役割を決めて音読しようとしている。(粘り強さの「進んで」、学習の調整の「今までの学習を生かして」、重点とするC(1)エ、言語活動のC(2)イを含めた、国立教育政策研究所の参考資料の形)

4 指導上の考察

(1) 単元について

本教材は、がまくん・かえるくん・かたつむりくんが登場する物語である。場面を出来事と呼ぶと、がまくんが一人で手紙を待つ場面、かえるくんが手紙を書いて届けを頼む場面、二人で待つ場面、手紙が届く場面になる。「待つ」場面が前半と後半に2度あり、同じ行動でも様子が違うので、比べると行動の意味が見えてくる。学習指導要領第1学年及び第2学年のC(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を働かせるのに向いている。似た言い方が場面をまたいで出てくるので、同じ言葉を探す活動が〔知識及び技能〕(1)アの言葉の働きへの気付きにつながる。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、低学年の読むことは「内容の大体を捉える」「行動を具体的に想像する」までで、主題をまとめることは求めない。気持ちを直接聞く前に、必ず行動と様子の言葉を先に見つけさせる。根拠の言葉と言えたことをほめ、気持ちの言葉の当たり外れは評価しない。表は第2次を通して同じ形を使い、2つの待つ場面を横に並べられる配置にする。音読は(1)クとして、想像したことを声(大きさ、速さ、間)で表す手段と、評価の場面の両方に使う。かぎの中は人物の声、外は語りの声で読み分ける約束を、全員での音読で毎回確かめる。

5 指導と評価の計画(全12時間)

第1次 第1時：○教師の読み聞かせを聞き、面白かった所を言い合う。○全文を音読し、登場人物を確かめる。

評価：知①(音読の観察)

第1次 第2時：○場面が変わる所(時・場所・人物が変わる所)に印を付け、場面ごとに「誰が何をした」を一文で言う。 評価：思①(場面ごとの一文)

第2次 第3時：○がまくんが一人で手紙を待つ場面を読み、行動と様子の言葉に線を引いて表に書く。○「この人物はどんな気持ちか。どの言葉からそう思うか」を話し合い、気持ちに合わせて台詞の読み方を工夫する。 評価：思②(表・発言)

第2次 第4時：○かえるくんが手紙を書いて届けを頼む場面を読み、行動と様子の言葉を表に書いて、気持ちを話し合う。 評価：思②(表・発言)

第2次 第5時(本時)：○二人で手紙を待つ場面を読み、前半の待つ場面と比べて、様子と行動を表す言葉から二人の気持ちを想像する。○想像した気持ちに合わせて、台詞の読み方を工夫する。 評価：思②(表・発言) 知②(振り返りカード)

第2次 第6時：○手紙が届く場面を読み、行動と様子の言葉を表に書いて、気持ちを話し合う。○場面をまたいで出てくる似た言い方を探す。 評価：知②(発言)

第3次 第7～8時：○行動から想像した様子を音読で確かめる。○印象に残った人物の行動と自分の体験の共通点や違いを話し、人物に伝えたい感想を選ぶ。 評価：思③(体験と行動の比較メモ)

第3次 第9～12時：○登場人物に、自分の体験と結び付けて感じたことを手紙に書く。○読み合い、どの行動からどんな感想をもったかが伝わるように直す。○人物への手紙を交流し、読みを振り返る。 評価：知③・思③(人物への手紙) 態①(見直しの記録)

6 本時の指導(5/12)

(1) 本時の目標

前半の待つ場面と比べながら、様子と行動を表す言葉を見つけ、そのときの気持ちを言葉を根拠にして想像できる。(C(1)エ、(1)ア)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前時までの場面の表を見て、前半の「がまくんが一人で手紙を待つ場面」の行動と様子、想像した気持ちを言い直す。

2 本時の問いをつかむ。

○「今日はもう一度待つ場面です。同じ『待つ』ですが、前と同じ気持ちでしょうか」

【めあて】同じ「待つ」場面で、気持ちは前と同じかを考えよう。

3 本時の場面を全員で音読する。

指導上の留意点：・前時までの表を黒板の中央に貼り、左側（後半の待つ場面）は空けておく。

・かぎの中は人物の声、外は語りの声で読み分ける約束を、全員での音読で確かめる。

【展開】

学習活動：4 誰が、何をして待っているかを一人で探し、行動の言葉に線を引く。

○「誰が、何をして待っていますか」

5 どんなふうに待っているか（様子）の言葉に、別の色で線を引く。

○「どんなふうに待っていますか」

6 前半の待つ場面の表と並べて、同じ所と違う所を隣の人と話す。

7 全体で発表し、黒板の表の左側（後半の待つ場面）に書き込む。

8 気持ちと根拠の言葉を話し合い、線でつなぐ。

○「二人はどんな気持ちで待っていますか。どの言葉からそう思いましたか」

9 想像した気持ちに合わせて、場面の台詞を隣の人と交代で音読する。

予想される児童の反応：・うれしい。

・たのしい。

・前の場面と同じで、かなしい。

・気持ちは言えるが、どの言葉からかを言えない。

指導上の留意点：・気持ちを聞く前に、必ず行動と様子の言葉を先に見つけさせる。

・気持ちを言った子には「どの言葉からそう思った？」と聞いて文章に戻す。

・気持ちを表す言葉だけで止まる子には「何を知っているから、うれしいの？」と聞き、人物が知っていることを整理する。

・前半と同じと答えた子には、2つの場面の様子の言葉を読み比べさせる。

・根拠の言葉を言えたことをほめ、気持ちの言葉の当たり外れは評価しない。

・叙述と台詞は、先生が教科書から選んで書き入れる。

・ICTがあれば本文を映して、線を引く所を全員で見る。根拠を全員で確かめやすくなる。

評価：思② 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（表・発言）

【まとめ】

学習活動：10 表を見て、前半と後半の待つ場面の違いを隣の人に一文で言う。

11 学習をまとめる。

【まとめ】同じ行動でも、様子の言葉が違くと気持ちが違う。

12 振り返りカードに、今日見つけた言葉を1つと、その言葉から想像した気持ちを書く。

指導上の留意点：・音読で工夫した所を、板書の左端に残す。

・振り返りカードは短く書かせる。

評価：知② 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。

（振り返りカード）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端：題名、作者名、めあて（同じ「待つ」場面。気持ちは同じか）。

中央：前半と後半の待つ場面を並べた表（右に前半、左に後半）。それぞれ上から「誰が」「したこと（行動）」「どんなふうに（様子）」「想像した気持ち」「そう思った言葉」を書く。左の後半を本時で埋める。気持ちと根拠の言葉は線でつなぐ。

左端：今日のまとめ（同じ行動でも、様子の言葉が違くと気持ちが違う）と、音読で工夫した所。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

